

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん

代表者・役職名 氏名 代表理事 小川 佳那恵

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ママてしごと部 ～子育て中の女性の才能発揮応援プロジェクト～

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

子育て中の親子が赤ちゃんの頃から自然の中でのびのびと遊べるよう、当事者のママたちが2016年に設立した団体です。20組ほどの親子が参加しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自分の育てる子どもたちとしっかり向き合いたい。そんな思いで生活をしている子育て中の女性の中には、現在就業していない方でも、裁縫や料理、保育や読み聞かせなど、いろいろな特技を持っている方が多くいます。そんな子育て中の女性たちが、特技を生かしつつ、協力し合って、社会と繋がり貢献しながら、子育ても楽しめる豊かなライフスタイルづくりを応援するプロジェクトが、「ママてしごと部」です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ママてしごと部は子育て中ママの特技の発掘から実際のワークショップ運営・自立までをサポートします。

- ・特技発掘・発展会議：自分自身は過小評価していることが多いですが、周りにとっては価値のある特技を誰しもが持っています。そういった特技を発掘するワークを行います。
- ・特技のワークショップ化支援(主に親子向けのにしごとイベント企画・準備)

発掘された特技を、実際に親子向けに価値あるポイントに絞ってワークショップを設計します。

- ・ワークショップの実現支援(準備・実施時のサポート、チラシ作成による参加者集め、講師謝礼)
- ・実施後の振り返りとアンケート収集、改善サポート、自立したワークショップや教室運営のサポート

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果：実施回数 特技発掘・発展会議5回(部会) ワークショップ化支援 10回(部会) 特技のワークショップ実施 7回(講座・てしごとフェス) 成果：開業届で事業開始 2名 副業開始 1名

社会的な変化：専業主婦や育休中の人など様々な状況であるメンバー構成で進めました。部員である母達の計画性や意欲向上、得意分野で協力しあい講座の質を高め合いました。講座は乳幼児親子を対象に、料理、クラフト、読み聞かせなど様々なテーマで行いました。1年間活動を行う中で、専業主婦の内2名が手づくり作家として開業、育休中の1人が復職後、副業としてクラフトイベントを開きたいという結果となりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後は部としては解散するが、来年度は当団体として、てしごとに限らずもう少し自由度が高い、親子が集う場を定期的に持ち、親も好きなことを仲間と一緒に実現できる場を作っていく。そこで今回てしごと部を体験して開業したり副業を始めたりしているママが先輩となり、他の人たちの挑戦を応援できる場づくりをしていく。開業した2名が子育てもしながらも収入を得るというモデルケースとなり、会社員で育休中に副業を始めるママもモデルケースとなり、それぞれ今後の母になる方々の一つの選択肢となるよう支援していく。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

